

第 14 回 木津川上流河川環境研究会

議事要旨

【開催概要】

開催日時：平成 20 年 3 月 24 日（月） 14：30～17：00

開催場所：名張シティーホテル 3F 「天平・白鳳の間」

【出席者】

委員：8 名

事務局：木津川上流河川事務所（3 名）

水資源機構木津川ダム総合管理所（2 名）

河川環境管理財団（2 名）

その他：木津川上流河川事務所、水資源機構木津川ダム総合管理所

【議事次第】

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 研究会前回議事の概要
4. 議事
 - (1) 各 WG 検討内容の報告
 - 1) 河川ダム水量・水質WGの検討内容報告
 - 2) 河道内樹林管理WGの検討内容報告
 - 3) 堰魚道WGの検討内容報告
 - (2) 環境目標検討作業に関する報告
 - (3) フラッシュ放流等に関する報告
 - (4) 平成 20 年度の検討方針について
5. その他
 - (1) 規約の改訂について
 - (2) 平成 20 年度の委員について
6. 閉 会

【議事項目ごとの審議結果】

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 研究会前回議事の概要

参考資料-1「第 13 回議事要旨(案)」を用いて、事務局より前回研究会の議事概要について説明し了承を得た。
4. 議 事
 - 4.1 河川ダム水量・水質WGの検討内容報告
 - 4.1.1 チーフからの説明

チーフより、資料-1「河川ダム水量・水質WGの検討内容」を用いて以下の報告が行われた。

 - 第 10 回河川ダム水量・水質 WG(H19. 12. 12)の内容報告
 - ・ 室生ダムにおける水質改善施設導入に係る詳細検討について
 - ・ 総負荷量管理モデル構築に向けた検討について

■第11回河川ダム水量・水質WG(H20.3.12)の内容報告

- ・総負荷量管理モデル構築に向けた検討について
- ・水質自動監視装置導入に向けた検討について

4.1.2 討議内容

(1) 室生ダムにおける水質改善施設導入に係る詳細検討について

- 散気装置の吐出水深は変更可能であるか。
→可変式であり、効果を検証しつつ吐出水位を決定して行きたいと考えている。
- モニタリングしつつ効果の検証を進めてもらいたい。

(2) 総負荷量管理モデル構築に向けた検討について

- 次年度はNPOによる調査データも、水質の基礎データとして取り込んで、充実を図りつつ進めていきたい。
 - 流域の水質調査地点の分布に関して、宇陀川のみ調査地点の密度が非常に高いがなぜか。また、それぞれの調査頻度、精度は同じか。
→調査地点は国、県等、関係機関の調査地点を併せてプロットしたもので、調査頻度、内容については未整理であるが、年間12回から4回等、様々である。
 - 出水時も含め、支川流量の把握が重要であるが、どういう観測方法がとれるか。
→レーザープロファイラーによる断面計測を行い、これを支川管理者に提供して流量を求めていく手法について試みている。水位の自動観測は費用、維持管理面等、困難な状況もあることから、NOPに協力をお願いするといった形態についても、その必要性を検討していきたい。
 - 晴天時・雨天時の区分で特性を把握する以外に、代掻き期において水質の問題があるかもしれない。そういった観点での資料収集、また、再現方法の検討などについて、順次やっていくことが考えられる。
 - 流域ブロックの分割の観点として、河川の物理的な環境や、例えば生物の分布も考慮できれば、よりよいものになると考えられる。
 - 現段階では、負荷量管理のスケール検討、水質の項目検討などを行う目的で、ブロック分割を行ったところである。ダムの存在や、支川の合流、また、河道内の自浄作用といった、水質形成に係る物質循環的な捉え方を分割のベースとしている。まずはこういった形で検討を進めるが、河川の物理・生物生息環境による分割の必要性についても、今後、無視できないと考えられる。
- (4) 水質自動監視装置導入に向けた検討について
- 観測装置の精度管理は、維持管理にリンクしており、NPOや河川レンジャーの協力も含めた、維持管理に関する検討が重要である。

4.2 河道内樹林管理WGの検討内容報告

4.2.1 チーフからの説明

チーフより、資料-2「河道内樹林管理WGの検討内容」を用いて以下の報告が行われた。

■WG委員個別説明(H19.11.14~H19.11.27)の内容報告

- ・岩倉地区試験伐採計画に関して

■第7回河道内樹林管理WG(H20.2.18)の内容報告

- ・岩倉地区施工計画について
- ・大内試験伐採計画について
- ・河道内樹林管理計画のあり方について

4.2.2 討議

- 今後とも伐採を進めていくということであるが、河道内樹林というものは、本来どうあるべきものなのか、環境に対してどういう役割をはたしているかといったことが不明である。
- 伐採による環境破壊という問題については、もともと河道内には洪水河積容量があり、

それが樹林によって障害を受けているという考えに立っている。岩倉地点の場合、本来砂州であったものが固定化し、植生が繁茂するという状況にあり、それに対してどういう管理手法がいいのか試験的にやってみることを目的としている。

4.3 堰魚道WGの検討内容報告

4.3.1 チーフからの説明

チーフより、資料-3「河道内樹林管理WGの検討内容」を用いて報告が行われた。

■WG 委員個別説明 (H20. 3. 13～3. 19) の内容報告

- ・今年度アユ遡上調査結果について
- ・今年度ダム湖アユ再生産調査結果について
- ・今後の調査方針に関して
- ・ワークショップ開催状況に関して

4.3.2 討議

- ワークショップでは、上野遊水池等を使って、魚道改善の取り組みを、地元の方々にも是非、実体験して頂くことをやってもらいたい。
- 木津川の生物多様性という観点からは、堰や淵によって魚の分布がどのようになっているのか、データを整理し提示して頂きたい。
- ダムの再生産に関連して、木津川のアユという資源をどのように捉えるかということ、地元、漁協を含めて少し議論する必要がある。天然アユの価値をどう位置づけるのかということ、今後、議論していてもいいのではないかと、河川目標を考える上で、必要ではないかと考える。
- 熱心な取り組みの事例として、矢作川では漁協が環境漁業宣言までして取り組んでおり、参考にして頂くといいのではないと思う。

4.4 環境目標検討作業に関する報告

資料-4「環境目標検討作業に関する整理」を用いて、事務局より説明が行われた。

今後、整理事項に準じ、特に問題となるところについて資料の追加整理、検討を行うものとするので了承された。

4.5 フラッシュ放流等に関する報告

資料-5「フラッシュ放流・土砂供給試験について」を用いて、木津川ダム総合管理所より説明が行われた。

- 土砂供給地点の直下では一時的に砂がたまるが、これが実際にどのくらいの期間続き、その結果、マイナス面があるのかどうかといった観点で、今後調査を行っていく方がいいのではないかと。今後土砂供給を拡大していくときのポイントと考えられる。
- ある程度データが整ってくれば、シミュレーションが可能と考えられ、置砂の仕方や流れ方の検討をやっていくと、興味を持たれるのではないかと考える。
- フラッシュ放流や土砂供給では、下流河川環境のどういうものを改善し、あるいは、目標とするのか、今後、調査結果とあわせ、示していくことが望ましい。
→水生生物の調査については、5年に1回の水辺の国勢調査により、長期的に生物がどう変わっていくか見ていこうと考えている。比較的短期間の変化傾向についてもデータを蓄積していきたい。
- 比奈知ダムの報告について、かなり激しい水温変化が生じる結果となっており、今後は、下流のどこまで影響があるのかといった視点でも検討して頂きたい。

4.6 平成20年度の検討方針について

資料-6「平成20年度の検討方針について」を用いて、事務局より説明が行われた。

平成20年度は本検討方針に準じ検討を進めるものとし、詳細については、研究会、及び、各WGにおいて検討を行うので了承された。

5. その他

(1) 規約の改訂について

参考資料-2「規約改定案」に基づき審議を行い、改定内容について承認された。

(2) 平成 20 年度の委員について

村本座長退任の意向を受け承認された。続いて、委員の互選により、池淵委員が座長に選任された。

6. 閉 会

以 上